

(様式2)

平成 30 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700107		
法人名	株式会社 菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花		
所在地	新潟県五泉市東石曾根5651番地		
自己評価作成日	平成30年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム菜の花は、「家族と共に」を合言葉に、いつでも誰でも来て頂けるホームを目指しています。

館内の広いホール窓からは、田植えから稲刈りまで季節の移り変わりを間近に感じることでできる田んぼや、四季折々に姿を変える菅名岳が一望できます。施設内で作る食事は地元で採れた旬の食材を使い季節を感じて頂き、また、おやつもスタッフ手作りのゼリーやパンケーキなどで、食べる事への興味・楽しみを感じて頂けるように工夫しています。

今年度、春には五泉の観光スポットでもある桜見、チューリップ、ぼたん園への散策と、ご利用者様全員と一緒に掛掛け、春の季節を楽しみました。秋にはミニ遠足ということで月岡温泉に行き足湯を楽しみ、近くの公園でシートを広げ手作りお弁当をみんなで楽しく頂きました。リンゴ狩りや紅葉見学、新米でおにぎり、里芋を使った芋煮汁で家族交流会も計画しています。一年を通して定期的に踊り、歌、大正琴などのボランティアに来て頂き、一緒に歌ったり踊ったりと楽しい時間を過ごしています。月一回理学療法士の先生にリハビリ指導をして頂いています。畳に座り足を伸ばした状態でリハビリを行っているため、長い時間背もたれがなくても座っていることが出来るようになりました。お陰で椅子の有無を気にしないで外出の計画を立てることが出来ます。

今後ご利用者様が日々居心地よく笑顔で過ごし毎日を充実できるよう、「家族と共に」を合言葉にサービスを提供していきたいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな田園地帯に所在し、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所との協力体制の中、安定した運営が行われている。建物は木材を豊富に使用し、全体に温かさが感じられる造りとなっている。共用空間からは田園風景と山々が見え、利用者は季節の移り変わりを感じながら過ごすことが出来る。建物内には手入れの行き届いた多くの観葉植物や鉢植えなどがあり、また、ボランティアが撮った季節の写真も飾られ、利用者にとっても「ほっと」できる空間が作られている。

開設時からの事業所の理念である「家族とともに利用者のその人らしい暮らしを支援して行く」方向性は揺るぎなく、職員も日々意識しながら質の高いサービスの実践に取り組んでいる。

利用者に対するおもてなしの心は、食事の場面でも実践されており、季節食材の使用や彩のある食器使い、細やかな盛り付けなどからも感じ取ることができる。また、餅つきや行事食などにも工夫が見られ、美味しく食べられることが利用者の大きな楽しみとなり、健康維持につながっている。さらに、できる限り自立した暮らしが維持できるように、外部から月1回リハビリ専門職を迎えて、体操や一人ひとりの状態に即したリハビリを実施し、日常生活に活かせるように取り組んでいる。

事業所は家族の交流会、運営推進会議、ボランティアの受け入れなどを通じて地域住民との交流を拡大しており、地域に根差した事業所となるように職員一丸となって取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、職員が常に見える場所に掲示すると共に、内部研修で学んだことを実践に繋げている。	開設時から事業所の目指すところである「一人ひとりの利用者が本人らしく過ごせる様に家族と一緒に支えて行く」という理念を、日々職員間で確認しながら取り組んでいる。理念は、開設時からミーティングや研修の際に振り返りを行っており、職員に意識づけがしっかりとなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌や踊りなど地域のボランティアの方に来て頂いている。防災訓練にも地域の方に参加ご協力頂いている。	事業所に設置されている地域交流スペースを活用して、地域の慰問ボランティアに発表の場を提供している。ボランティアの中には「季節の風景を利用者に感じてもらいたい」とビデオ映像を流したり、写真を展示する方もおり、利用者との交流を積み重ねている。また、毎年祭りには神輿を披露しに立ち寄ってくれるなどの交流も恒例化し、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において徘徊時の協力、見かけない人がうろろしていたら連絡頂けるようお願いする話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、推進委員・行政・包括からご意見・ご指導を頂き、頂いた内容に関して内部研修で職員に繋げ、サービス向上に努めている。	運営推進会議は同法人の隣接地内の地域密着型サービス事業所が合同で開催している。主には利用者の状況や行事、ひやりハット内容等の報告であるが、防災に関する意見や健康管理についての助言等については、職員間で話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の敬老会に参加している。困ったことがあれば介護支援専門員が市役所に相談し、いつでも相談事には耳を傾けて頂き、安心したサービスが出来ている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の他に、行政の担当職員も参加しており、事業所の状況を伝えやすい体制となっている。また、医療と介護の連携事業が促進される中で、会議や研修会が実施されており、行政とともに地域全体の福祉の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一回身体拘束適正化委員会が集まりケアについて話し合っている。内部研修にも身体拘束について学ぶ機会がありケアに取り組んでいる。	基本的に利用者がどのような状態であっても身体拘束は行わない方針で、全職員が統一した意識でケアの実践に取り組んでいる。終始見守りが必要な場合でも職員が常時寄り添い、周辺症状の要因を捉えて工夫を行いながら、自由な暮らしへの支援を行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に一回身体拘束適正化委員会で虐待についても話し合っている。内部研修にも虐待について学ぶ機会があり、防止に努めている。	「身体拘束」と一緒に「虐待防止」についても内部研修を定期的実施し、正しく理解することに努めている。管理者は常に職員の様子に気を配り、普段と違う時には声をかけるなど、ストレスを抱えることがないように配慮している。また、職員間でも利用者に上手く受け入れられない時は、自然に交代するなどのチームケアが実践されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加させて頂いた外部研修を元に、個々に必要な方がいれば職員全員で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において説明はしているが、尚、病状悪化時家族の希望を重視し、行き場がないということがないように介護支援専門員が対応し、契約解除を行っている。家族が不安がないように解除後も関わりを持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設けている。また、家族の来所時には日々の様子をお伝えし、家族が安心できる関係を保っている。	前回の外部評価結果を受けて職員間で検討を行い、家族からの意見・要望の取りこぼしがないように、受付窓口を一本化して改善に取り組んだ。利用者・家族には常日頃からなんでも申し出て貰えるように働きかけを行い、家族の集い等を通じて意見の引き出しに努めている。	玄関に苦情箱を設置して家族からの意見の引き出しに努めているが、活用されていない状況にある。今後は、意見や要望等を言い難い家族の心情を理解しながら、率直な意見が引き出せる工夫に取り組んで行くことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案があればその場で改善するようにしているが、内部研修でも意見や提案を聞き、反映させている。	職員は日々のミーティングや定期的実施している内部研修の時間に活発な意見交換を行っている。代表者は在所していることも多く、職員からの意見・要望等には常に対応し、質の向上が図れるように取り組んでいる。最近では利用者が自室を間違えないようにする提案を受けて、木製のプレートを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを重視しているため、各職員が質の向上に努めている。介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得に挑戦する職員もいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会があり、内部研修でもその時必要と思われる内容の講義にて、職員全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回、グループホーム協議会の研修会に参加し交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の人が入所することで、周りの人が一緒に声掛けや助け合う気持ちを示しているため、困った様子も見られないが、常に家族が来所出来る環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも快く迎え入れるため、昼夜問わず家族の来所はある。受診は家族にお願いしているため、家族とのコミュニケーションはスムーズに図れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思いを大切にしている。家族が安心して任せられるケアを充実するよう職員教育は常に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつでも一緒に心掛け、側面から支えている。掃除や洗濯など日常生活で出来るところは一緒に行っている。お客様へのサービス精神を忘れない心配りも指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本受診時は家族の協力のもとで行っているが、急な受診は職員対応で行い、いつでも家族と共に支える関係を築いている。	家族と一緒に利用者の主体的な暮らしを支えて行く理念の実践に日頃から取り組んでいる。利用者の生活習慣から、新米の収穫時期や墓参りの時期には定期的に自宅で過ごしたり、通い入れた商店での買い物や外食、季節ごとの衣類の交換などを家族と一緒に出来るように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の都合の良い日に一緒に自宅に帰ったり、食事に行ったり家族と共に過ごす時間も設けている。また、馴染みの美容室などには職員が送迎し本人の希望に沿ったサービスを行っている。	家族や友人、一緒に働いた同僚が訪ねて来た際にはゆっくり過ごせるように声掛けや場づくりを行っている。春にはプランターの花植えや、趣味で行ってきたフラワーアレンジメントなどにも触れる機会をつくっている。また、入居後も定期的に来るボランティアとは馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、各自部屋にいることも少なく、利用者同士の関係も自然と身につけている。助け合いや、協力関係など微笑ましい様子がうかがわれる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、相談事があればいつでも相談に応じる支援を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症実践者研修に参加した人を中心に、個々の思いや希望や意向を内部研修等で話し合いを行い、把握に努めている。	普段から利用者の声には耳を傾けて、どのような暮らしを望んでいるのかを把握するように取り組んでいる。職員は利用者寄り添って、言葉に上手く表出できない利用者の思いも感じ取れるように努めている。また、気づいたことは必ず職員間で共有できるようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らしぶりを聞き出し、これからどのように生活していきたいか尋ねて、返答ある方ない方というが、得た情報を共有し把握している。	入居の際に家族からの聞き取りや、これまで利用していたサービス事業所や居宅のケアマネージャー等から情報の収集を行っている。また、入居後も利用者との会話や面会に来た家族・知人からこれまでの暮らしについて情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出かける日は朝のうちに皆さんに伝え自分で出来る方は身支度をしてもらい、出かけない日は掃除をする人や、病状によってはベッドで休まれる方など様々に好きなように過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化を見逃さないようにし、変化があればその都度介護支援専門員に繋げ、ケアについて話し合っている。	介護計画は職員の意見を聞きながら、計画作成担当者が中心となって作成している。短期目標を達成するために、援助内容に沿って日々取り組みを実践しているが、事業所職員のみでなく、家族やボランティアも役割を担っており、チームで支援している事がうかがえた。モニタリングは3ヶ月毎に実施しているが、状態変化時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行い、個別のファイルに綴じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何時でも来所出来る環境を作り、受診時は早めに家族に連絡し協力を仰いでいる。その為、家族とのふれあいや、状況把握が出来るよう心掛けている。県外在住の家族帰郷には、家族と共に過ごすなど、家族とのふれあいを大事にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族やご近所様や馴染みのお店などが途切れないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を大切にしている。家族とも連絡を密にし、介護支援専門員を中心に主治医との連携を取り、安心して過ごして頂けるようにしている。	入居前のかかりつけ医を継続して受診できるように家族と情報の共有を図りながら支援している。介護支援専門員を中心に主治医との関係性が築かれており、必要時には相談・往診対応も可能で、利用者・家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化などあった場合などは、看護師・介護支援専門員に報告し、家族に繋げ受診を受けられるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添いを行い、2～3日中に治療法や入院期間を知らせて頂いている。又、事業所も状況把握するため、時々面会を通して病院のケースワーカーとの関係を大事にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、本人・家族に意向を聞いている。状況悪化すると介護支援専門員が終末期について家族との話し合い、医師との連携を取り方針を共有し、施設での家族支援を行っている。	利用者・家族が事業所で終末期を過ごす事を希望した場合は、対応が可能である事を入居時に説明している。利用者の状態に変化が見られて来た時には、早めに主治医・家族と話し合いを行い準備を進めている。これまでも看取りを経験していることから、職員も統一した意識で受け入れ、対応力を積み重ねている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生が起きないように特に日中の状況管理をしっかり行い、急変が夜間に起きないようにしている。	消防署主催のAED使用法の研修を毎年実施している。また、急変や事故対応についてもマニュアルの整備と実践研修を実施して、適切に対応できる力を身に付けている。また、日中の状態をよく見ており、異状を見逃さず、他事業所の看護師等に相談しながら早めの対応を心掛けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。7月の防災訓練には地域の方々にも参加ご協力頂いた。	夜間想定訓練も組み入れながら定期的に防災訓練を実施している。また、立地条件を踏まえて事象別の対応策を講じ、備蓄品も入れ替えを行って整備している。地域住民の協力体制についても、7月の訓練には参加を得ており、今後も広がるように働きかけている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて周知、指導している。お客様一人ひとりの人格を尊重できる言葉かけを行っている。	利用者は人生の先輩である事、またお客様でもある事を基本にし、職員は常に自分を利用者置き換えて、「自分がしてもらいたくないこと」「言われたくない言葉かけ」等は行わないように徹底している。不適切な言葉かけがあった場合は、職員間で注意し合える関係性も築かれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、ご本人の思いや希望を出せるよう、日常の会話の中でさり気なく聞き出したり、自己決定できるように言葉かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や会話の中から、外に花を見に行ったり近所に散歩にいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診時やお出かけ時には、何を着ていくか担当職員と服選びを行っている。毎日同じ服装にならないよう担当職員がオシャレに気配りを行っている。散髪においても常に綺麗にしている下さいと家族にお願いされているため、伸びてきたら地域の床屋や今までの床屋に連れて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な旬の野菜が入るため、その野菜を見ては皆さんが食べたいものを作るように献立を立てている。出来る範囲のお手伝いをして頂いている。	「食事を楽しんで元気でいてもらいたい」との思いが込められた食事作りが行われている。季節の食材、地元の野菜や果物を使い、食器も家庭的な器を使用しており、職員も一緒に会話をしながら和やかな雰囲気の中で食事を摂っていた。献立は一日ごとに作成し、差し入れがあったり、利用者の希望があった場合などはいつでも変更が可能となっている。食材の下準備には利用者も参加しており、季節ごとの干し柿づくりやちまきづくりも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	この夏の猛暑には皆さんが喜ぶスイカを、食事以外で水分摂取として美味しく頂くなど工夫し、熱中症予防に繋げた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後歯磨きを促すが、認知症で分からない方には、何度も何度も教えることで歯磨きをきちんとしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握しているため、夜間の排泄時間は本人の希望で起こすなど支援している。又、トイレでの排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況を確認し、適切な排泄用品の使用や時間誘導を行うことで、トイレでの排泄を支援している。また、排泄の自立は利用者にとっても自信につながることから、身体機能の低下を防止するために、専門職によるリハビリを実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には旬の野菜を使った料理は必ず取り入れ旬の果物もデザートにつけている。食事に繊維質の物を取り入れ、排便には支障がないように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後にとらわれず、入浴の声を掛けている。入浴が嫌いな人には、衣類の工夫、オシヤレを楽しむ工夫を取り入れる中で、コミュニケーションを図りながら入浴している。	入浴は利用者のその日の過ごし方や希望に応じて、可能な限り時間にとらわれず対応している。ゆったり職員と一対一で話せることもあり、利用者にとっては楽しい時間にもなっている。季節に応じてゆずや菖蒲湯等の季節が感じられる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時、その状況に応じて対応している。夜眠たくなるまでその人に合った対応を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は事業所で行っている。薬がなくなりそうだと家族に連絡し、受診のお願いをしているが、家族が行けないときは受診介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割分担を持って過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	大きな行事として敬老会や月岡の足湯などを楽しみにされている。家族も外出行事の為に衣服を購入など率先して考えて下さり、皆様もその日を楽しみに家族と話をされている。	日常的には事業所周辺の散歩に出かけており、個別の買い物等には家族の協力も得ながら対応している。事業所では、外出は全員参加を基本としており、毎年参加する市の敬老会をはじめ、季節の花見や足湯に出かけている。職員手作りの弁当持参の外出もあり利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が管理している。所持金を預かりとして外出を希望されれば考えますと、家族の意見を聞き出したが、お金を使う支援は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの家族からの電話は、電話口に出してもらい、安心した支援を行っている。手紙やハガキなどが届いたら本人に渡し、必要があれば職員が読んで内容をお伝えするなどし関わりを持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも家族や地域の方々が来れるようにと、地域交流センターがありますが、日頃交流センターで3時のおやつを和室で床に座って食べることで、足を伸ばすという運動にしたり、広々ゆったりと過ごしている。床暖房で暖かで静かな場所での生活を満喫されている。	事業所全体が自然の木材を使用した温かみを感じられる造りとなっている。床暖房や加湿器の使用で適温の中で過ごせるように管理している。浴室、トイレ等も清掃が行き届いており、適所に手すりを設置して使いやすいように工夫している。また、玄関や交流スペース、居間には多くの観葉植物や季節の花があり、癒しの空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、地域交流センターの和室など、一人ひとり好きな場所に座り本や新聞を読んだり、友達同士が固まり思い出話が弾んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は寝室と捉えている。ベッドや季節ごとに入るくらいの洋服ダンスを設置しているため、家族が季節ごとに衣服を持って来られ本人と一緒にダンスの入れ替えを行っている。茶碗、箸、お椀などは自前の物を使っている。	居室には、備え付けのクローゼットと洗面台、ベッド・寝具が設置されており、壁面にはカレンダーや誕生カード、皆で作った作品等が飾られている。利用者はほとんどの時間を共用空間で過ごす事が多く、居室では、休養したい時に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはトイレと表示があり、居室には分かりやすいように自分の選んだ花の名前と絵が貼ってある。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				